

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 令和7年2月25日				
ガーデンキッズ セルク						
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・マルヤガーデンズの屋上庭園（ソラニワ）や近隣の公園等、地域の資源も活用し、活動を実施しています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・職員数においては、配置基準を満たしています。また、その日のお子さまの人数や状態に合わせて職員数を調整し、安全に活動を行っています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・必要に応じて写真・絵カードやタイムタイマーなどの視覚支援ツール等を活用し、お子さまにとってわかりやすい環境づくりになるように努めています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・療育終了後に室内、トイレの清掃、玩具の消毒を行っています。また、換気や空気清浄機の使用も常時行っています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・カーテンで仕切りを作り、個別の場所を設定しています。必要に応じて、利用しています。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		・活動前後のミーティングにて、日程や業務の確認に加え、利用者支援についても振り返りを行っています。	・引き続き、利用者支援の振り返り等を実施し、より質の高いサービスを提供できるように努めます。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・本アンケートを通して把握した内容については、事業所内でも情報共有しています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・職員との面談やチーム会議などで、聞き取りや意見交換を行い、業務改善を行っています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・毎月、園内研修や福祉全般の分野に渡って幅広く研修を行っています。 ・職員が自己研鑽に励めるよう、オンラインで受講できるe-learning（スペシャルラーニング）を導入しています。	
適	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・支援プログラムを作成し、ホームページで公表しています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		・複数の職員でアセスメントを行い、お子さまの変化や成長を個別支援計画に反映させています。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・個別支援計画を作成する際には、担当者だけでなく複数の職員で今後の支援について検討しています。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・活動前のミーティングで、個別支援計画の支援目標や内容を伝達し、職員間で連携した支援を行うよう努めています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・新版K式発達検査2020、PVT-R絵画語い発達検査を保護者承諾の上で実施しています。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		・本人支援については、適切にアセスメントを行い、お子さまの発達段階に合わせた支援内容になるよう努めています。 ・「家族支援」「地域支援」では、家庭や園での様子を確認し、地域の中で安心して過ごすために必要な支援内容となるよう努めています。	

切 な 支 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・翌月の活動のねらいについてチームで話し合い、セラピスト（公認心理師・言語聴覚士、理学療法士、作業療法士）の意見を基に活動プログラムを作成しています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・お子さまが好きなことや興味のあることを活動に取り入れ、プログラムが固定化しないように工夫しています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		・お子さまの状況に応じて、集団・個別の活動を適宜組み合わせ活動しています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・指導案を基に、活動のねらいや支援内容の確認、職員の役割分担について活動前にミーティングを行っています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・活動終了後に振り返りの時間を設けています。セラピスト（公認心理師、言語聴覚士、理学療法士、作業療法士）も参加しており、専門的な視点から活動の進め方やお子さまへの支援方法等の意見交換を行い、スムーズな活動の展開ができるよう努めています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		・お子さまの様子については、毎日の支援日誌へ記入しています。必要に応じて、支援の検証や改善に努めています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		・半年に1回のモニタリングを行い、担当・児童発達支援管理責任者で個別支援計画作成会議を行っています。会議では、支援内容やお子さまの様子にどのような変化があったか確認し記録に残しています。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		・参加が難しい場合は、事前に相談員へ書面や電話等にて情報共有を行っています。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・併行利用や移行の際は、関係機関と情報共有を行い、相互理解を図っています。移行後には、必要や要望に応じて保育所等訪問支援を実施しています。 ・関係機関からの見学も受け付けて対応しています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・就学の際は、移行支援シートを作成し、保護者の了承を得た上で小学校へ情報提供を行っています。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		・公開療育や研修会へ参加し、活動内容や保護者支援等、各事業所での取り組みについて連携を図っています。また、必要に応じて助言などを受けています。	
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		・地域交流として、マルヤガーデンズと共同し、天文館みつばちプロジェクトやハロウィンイベント等に参加し、地域の開かれた場で楽しく活動できるよう努めています。		

	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・日々の引継ぎにて、お子さまの状況について保護者と情報共有を行っています。また、個別相談を年1回は実施し、希望される方へは随時面談を設定しています。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		・マルヤガーデンズと連携し、7月に子育て支援講座(単日)、9月~10月にペアレント・プログラム(全6回)を実施しています。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		・利用前の見学や契約の際に、施設の紹介や児童発達支援の内容、活動プログラム、および利用料の説明を行っています。また、保護者からの質問等にはその都度返答を行っています。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		・個別支援計画作成、更新時に保護者へ児童発達支援計画を示しながら、支援内容について説明を行い、同意を得ています。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・毎年、6月に就学前個別相談(年長児保護者対象)、9月に個別相談(年長児以外対象)、その他の面談は要望に応じて随時実施しています。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		・年2回、合同保護者会を実施しています。 ・今年度は、保護者同士のつながりが広がるよう、セルク茶話会を2回実施しています。今後も定期的に実施ができるよう計画をしていきます。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		・随時、電話や連絡帳アプリ等を活用し、相談受付を行っています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月、おたよりにて活動内容や行事予定をお知らせしています。 ・連絡アプリ(コドモン)を活用して情報を迅速に保護者へお知らせできるよう努めています。また、ホームページにて活動の様子も掲載をしています。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		・お子さまへのコミュニケーションの手段として、発達段階に合わせて写真や絵カードなどの視覚支援ツールを用いています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		・法人として、秋まつり、ワークショップ等を実施しています。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		・各種マニュアル(事故防止・防犯等)を策定しており、保護者も閲覧できるようファイリングして玄関に設置しています。	
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		・マルヤガーデンズにて地震消防総合訓練が年2回実施され、セルク職員も参加しています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		・サービス利用開始前に服薬の状況や体調等、お子さまの健康状態の聞き取りを行い、必要な対応方法について検討し、保護者と確認をしています。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		・利用契約時に食物アレルギーの有無、保護者を通して医師の指示書について確認を行い、おやつを提供しています。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		・年間計画表を作成し、避難訓練や不審者対応訓練を実施しています。また、園外活動などを通して、公園遊びや、交通ルールに関しても学べるように努めています。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			

51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		・法人内で起こった事象を共有することで、再発防止とヒヤリハットに対する意識の向上に努めています。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・虐待防止に関する研修を毎年行っています。また、自己チェックシート、人権侵害防止に関する書類への署名等、虐待防止に向けた意識向上の取り組みを行っています。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○			